第３期井川町総合戦略に係るパブリックコメントの実施結果について

１．実施期間：令和８年６月１５日（月）～令和８年６月３０日（火）

２．ご意見の件数：１０件（３人）

３．ご意見の内容と町の考え（回答）

No.	ご意見・ご質問	町の考え（回答）
1	P14地域ビジョンの表現について：推進期間が5年間であるのに対し、「つながりと交流で未来を創るまち」という「未来」の言葉に違和感がある。	本計画の推進期間は令和8年度からの5年間となりますが、第2章で示している「2050年の人口の将来展望」を見据え、長期的な視点を持って直近5年間の施策を展開していくという町の姿勢を表すものとして、「未来」という言葉を使用しております。何卒ご理解をお願いいたします。（原案のままといたします）
2	P15マネジメントサイクルの記載について：「政策分野ごとの基本目標を設定するとともに、」の記載は前段と重複しており、文脈も合っていないため不要ではないか。	該当の記載は、PDCAサイクル（目標設定→検証・改善）の全体的な流れを説明するための導入（前提条件）として必要な記載であると考えております。（原案のままといたします）
3	P15マネジメントサイクルの記載について：「KPIを設定し、」とあるが具体的な指標がない。検証のため中間指標も記載すべきと思う。	具体的な指標・中間指標は別表で設定・管理しておりますが、各施策ページの「目標指標」が「KPI」を指すことなどが分かりにくかったため、明確に伝わるよう本文表現を修正いたします。（ご意見を反映し、一部修正いたします） 【修正案】 総合戦略では、政策分野ごとの基本目標を設定するとともに、別表のとおり５年間の取り組みに対する重要業績評価指標（ＫＰＩ：本計画各論においては「目標指標」と記載）および各年度の中間指標を設定し、検証と改善を図るための仕組みとしてＰＤＣＡサイクルを運用します。
4	個別施策（婚活支援）について プライバシーに関わることですが、３０から４０才代の未婚者が多く存在する。結婚の意思を確認して婚活に繋げられないか。	婚活支援につきましては、基本目標2の「①結婚・出産・子育ての支援」において、実態に即したきめ細やかな支援策を引き続き検討してまいります。
5	個別施策（引きこもり対策）について プライバシーに関わることですが、実態を把握して、社会生活に引き込む何らかの取組が必要と思う。	引きこもり等への対策につきましては、基本目標3の「①医療・介護・福祉環境の充実」の地域包括ケアシステム充実の中で、実態に即したきめ細やかな支援策を引き続き検討してまいります。

No.	ご意見・ご質問	町の考え（回答）
6	日頃思っていること。子育てや町内進行への環境整備が充実し、井川町の未了が高まっている。「イカワプラス」に期待している。観光開発としての農林業体験やジビエ料理の開発と提供、空き家管理と移住定住業務、農福連携や日本国花苑の草取りなどの福祉連携業務、それに、旧小学校跡地の利用計画として定住促進センター、日本国花苑を一つのエリアとして開発する研究など。	ご意見として承ります。
7	空き家の活用について 空き家バンクへの登録は本人申請だが、制度を知らない人もいるのではないか。町内で亡くなり空き家になった家の家族に連絡を取り、意向を聞くことはできないか。個人情報の壁もあるとは思うが、積極的に動かないと空き家バンク活用は増えないと考える。	ご指摘の通り、空き家対策においては、単にバンクへの登録申請を待つだけでなく、実際の利活用に繋げていくための積極的なアプローチが必要不可欠であると町としても強く認識しております。こうした考えのもと、本計画の策定にあたりましても、当該施策の目標指標（KPI）をこれまでの「空き家バンク登録数」から、「空き家バンクを通じた利活用件数（累計）」へと変更し、実際の利活用やマッチングに向けたサポートを強化していく方針といたしました。ご提案いただいた所有者やご家族への直接的なアプローチ等につきましても、個人情報等に配慮しつつ、今後の具体的な事業展開の中で前向きに検討・実施してまいります。 （今後の事業実施の際の参考とさせていただきます）

No.	ご意見・ご質問	町の考え（回答）
8	「今、喫緊の課題となっているのは『持続可能な地域づくり』であると考えています。超少子高齢化が進む井川町において、住民が安心して生活を送るためにはどうすべきか。人がいなければ話になりません。これは井川町のみならず、秋田県、ひいては日本全国で直面している深刻な課題です。 こうした状況下で最も重要なのは『若者の定着』です。井川町で生まれ育ち、町内で働き、老後まで安心して過ごせる環境――。具体的には、誰もが安心して出産・子育てをし、家庭を築ける基盤が必要です。そのためには、生活の糧となる『働く場所』の確保が不可欠です。進学等で一度町を離れたとしても、就職先として再び井川町を選択できるような町づくりが求められています。 つきましては、その実現に向けて、企業誘致や起業支援にも一層力を入れていただきたいと考えています。」	ご指摘の通り、若者が町に定着し、将来戻ってきたいと思える環境をつくるためには「魅力的な働く場所の確保」が不可欠です。 本計画の「基本目標１　地域の産業を振興し安定した生活基盤と雇用をつくる」において、新たなビジネスに挑戦する起業・創業の支援や、企業のＤＸ推進支援などを掲げており、若者に選ばれる活力ある産業と雇用の創出に力強く取り組んでまいります。
9	「他町村の方々からは、井川町は『福祉が充実している町』とよく評価をいただきます。福祉施設やコミュニティバスの運行など、一定の基盤は整っています。しかし、住民が真に『暮らしやすい』と感じる環境にするためには、もう一段階の工夫が必要ではないでしょうか。例えば、交通アクセスの更なる利便性向上や、地域内での助け合い（近所付き合い）の活性化など、課題はまだ残されています。特に、病院への移動が困難であるという声も耳にします。	病院や買い物など、日常生活を支える交通手段の確保は喫緊の課題と認識しております。「基本目標３　暮らしやすく健康でいきいきと活躍できるまちをつくる」において、デマンド交通の導入など、町民の皆様のニーズに応じた安全で安心な地域交通インフラ等の確保・向上に努めてまいります。
10	真に安心できる町づくりのためには、子どもから高齢者まで世代を超えて交流し、日常的に意見交換やコミュニケーションが取れる環境が不可欠です。地域全体で支え合える関係性を築くために、住民同士のつながりを深める取り組みをもっと積極的に推進すべきだと感じています。」	子供から高齢者までが交流し、地域全体で支え合う仕組みづくりは、持続可能なまちづくりの根幹です。「基本目標４　人びとが活発に交流し集う、つながりのある地域をつくる」における地域コミュニティの活性化支援や、「基本目標２　安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる」における子育て支援多世代交流館（みなくる）の活用などを通じて、多世代が自然に交わり、互いに支え合える温かい地域社会を構築してまいります。